

「第 19 回技術士のタベ」レジュメ

(H22. 7/16(金)18:00~20:00開催)※

場所 技術士会荳手ビル5階 AB 会議室

参加者 32名(講師を含む)

1. 講演

「原子力で支えるこれからの社会-持続可能な発展を支える原子力の重要性について考える-」
前川則夫氏(日本原子力学会シニアネットワーク会員、元・日本原子力発電(株)常務取締役)

2. 講演概要

世界のエネルギー総使用量は2005年で114億トン(石油換算)に達している。これは降り注ぐ太陽エネルギーの1万分の1を超える巨大なものである。今日の社会はこの文明の維持に必要なエネルギーや資源をどのようにしたら確保できるであろうか。環境がこの巨大なエネルギーの使用をどこまで許容するであろうかという難問に直面している。

ローマ宣言以来 30 余年を経て「成長の限界」が顕在化し、世界のエネルギー供給システムは大きく変わろうとしている。原子力が主役の座に近づき、太陽光、水力、風力なども主要な役割を担い、貴重な化石燃料も将来世代と資源の価値を共有しながら有効に利用されていくだろう。しかしながら、低炭素社会実現への道のりは平坦ではない。紆余曲折が予想される様々な課題を皆様と一緒に考えて行きたいとして、講演が行われた。



講演では、「原子力で支える・・・」としながらも、講演の6割は現代文明の抱える諸問題、成長の限界に関する丁寧な解説である。近未来の人口増と急速な世界的な近代化にあつての持続可能な発展の考え方、食料、エネルギー(石油、石炭、天然ガス)の現状と将来予測を説明し、合わせて地球温暖化に関する知識の整理や再生可能エネルギーの解説、スマートグリッドの課題も挙げた後に、比較対象として初めて原子力を登場させる。

但し、単に原子力優位を主張するのではなく各々のエネルギーの役割や利点も説明し、大胆なエネルギー利用形態の電気への転換を主張する。

原子力に関しては、将来予測や日本の政策的課題に冷静な判断を示しつつ、資源争奪やCO2排出増等の文明の課題克服の抜本的な処方箋には高速炉サイクルが不可欠とし、将来を見据えた地球的視野や日本の国力維持のための戦略が大切と力説された。



以上

※技術士会員の方は《Pe-CPD》<http://www.engineer.or.jp/cpd/pe-CPD.html> から講演内容のH P 視聴ができます。(9月予定)